

会 議 名	第15回 まちづくりの勉強会
日 時	令和元年11月27日 午後7時30分～午後9時21分
内 容	<p>[テーマ] 高山の未来のための都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市 民 25名 事務局 4名 計29名 (10代:0名 20代:4名 30代:4名 40代:11名 50代:6名 60代:4名 70代:0名)</p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに(10分) 進行:事務局 ② グループ討議(70分) 30年後の高山市の姿についての最悪の仮説を克服するため、高山市は何をすべきかということテーマに、前回の内容を具体的な提案として深く掘り下げるよう各グループで討議 ③ グループ別発表(10分) ④ 意見交換(20分) ⑤ おわりに(1分)</p> <p>[グループ別発表] 【グループA】市街地 最悪の仮説 昔は「飛騨高山」として名を馳せていたが、古い町並は観光客の姿もまばらで、商店街はシャッター街となっている。 第14回まで 高山の暮らしをリスペクトし、高山らしさを守っていくために、「高山ゼミ」を開く。 ↓ 第15回 「高山ゼミ」はひとつの手段であって、たまり場があることが必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意識的にたまり場を作る。</li> <li>・人を集める方法は、職場体験の場を通したり、町内会を通じて行ったり、高山に興味がある県外の人たちも含め、体験ツアーみたいなものやってみる。(スタンプラリーも良いかも。)</li> </ul> <p>【グループB】集落 最悪の仮説 郊外の集落では住む人がほとんどいなくなり、空き家ばかりとなって田畑や山林は荒れ放題。 → 「食の安全、農業の安全」を宣言し、子どもたちを安心して育てられる地域にする。 → 都市部には無い山、水、肥えた土がある。命に関わるこれらを守るために地域の人たちに考えてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最低限、地域の安心安全が必要。誰かが住んでいて、荒れないことが大きなテーマ。</li> <li>・地域のコミュニティを大事にする。</li> <li>・地域の人たちが、地域資源の安心安全を宣言することで、水、土(微生物)などの研究機関やベンチャー企業を呼び込み、一緒に職場を作る。そして、若者を呼び込む。そのためには、地域住民が意識変革をすることが一番大事なこと。</li> </ul> <p>[全体ディスカッションでの主な意見] ・大学連携センターでは、大学と一緒にした調査研究ということをしている。高校生と大学生の交流、高校生と高齢者の方との交流が生まれている。また、大学のゼミ合宿等も誘致している。地道な活動によって、高山が少し変わってくるのではないかと思う。 ・丹生川にて「農山村地域の文化的景観の継承を考える」というシンポジウムを開催した。丹生川のまちを知ることから始めて、地域の人たちと接し、歴史や風土を学び、シンポジウムに繋げていった。</p>

神奈川県真鶴町は「美の基準」という旗を立て、内外に発信することで、共感した人々が訪れている。高山でもこれから地域の人たちの意見を聞きながら、活動していきたいと思う。

[アンケートより抜粋]

- ・若い方、支所地域の方の意見が聞きたい。
- ・次回を最終結論の回としてはどうか。
- ・これまでを踏まえて、高山市としての考えを説明してほしい。

[まとめ]

- ・第16回は、令和2年1月29日（水）19：30～21：30 市役所にて。